

受け継ぐ

伝統を重んじつつ
竜門園モダンイズムを
未来につなぐ

株式会社竜門園(仙台市)

工事部長 松島 満義さん
Mitsunobu Matsushima

高校時代に
造園の魅力知った
竜門園に入社し
高い能力を発揮

松島満義工事部長がこう話す。「造園には過去から連続とつむがれてきた伝統があります。この伝統は重んじなければならぬのですが、ただ、時代は移り変わるもの。歴史にあまりこだわらずに、守るべきものは守りながら、より良くしようという思いを常に持って竜門園の従業員は仕事をしています」
そんな会社だからこそ、「ストレスなく、思い切り仕事ができます」と見上愛輝さんは話すのだろう。宮城県農業高等学校造園芸科造園専攻で学び、



▲「刈り込みの作業は好きだし、楽しい」と話す見上さん(上)。松島部長(下左)からさまざまな知識、技術を教わる毎日だ

付加価値のある
庭づくりを提案
笑顔、感動を顧客に
届ける

造園業を営む、1974年創業の株式会社竜門園は齋藤健現社長の兄である、千明前会長(故人)が立ち上げたものだ。当初の社名は登竜門。中国の「後漢書『李膺伝』」に「黄河の上流に竜門という激しい流れがあり、その下に鯉が集まるも、急流を登れる鯉はほほえない。ただし、登ったその鯉は竜になる」という故事があり、それが転じて、登竜門には立身出世の関門という意味がある。
自身の会社に登竜門と名付けるほど、千明前会長は、造園業で高みを目指そうと強い意志をもって会社を興したわけである。創設10年後には現在の社名、竜門園に変更。これも創業のときすでに思い描いていたといい、千明前会長の「自ら

＜見上さんの作業を厳しくも温かい目で見守る松島部長



造園工 見上 愛輝さん
Yoshiaki Mikami

30歳までに庭全体を
俯瞰する能力身につける
トータルコーディネーターに
いよいよ挑む

見上さんが造園師として一皮むけるためには、「モチとチャレンジ精神が必要」と松島部長は指摘する。「失敗を恐れていては、大きな成功は得られません。もし、うまくいかなくてもリカバリーや手助けはわれわれ上司や先輩がします」。見上さんも「まだまだ自分の作業に手いっぱい、案件の全体を分かった上で仕事ができているとは言えません。基本技術のレベル向上は当然として、全体を俯瞰で見渡せるようになることが今後

の手で未来を切り開いていこう」という強い決意を示すエピソードの一つとなっている。
竜門園は多くの賞を受賞し、高い技術とプロ意識から、その評価は揺るぎないものになっている。健社長は2019年度の「宮城の名工」にも選出。そうした竜門園が常に心掛けていっているのは、顧客に笑顔、感動を届けたいということ。そして、社員一人一人が抱くのは「竜門園モダンイズム」である。



保水力の高い鳴子石を使って土留めの石積みを行う松島部長(右)と見上さん



▲見上さんの大ばさみの扱いは松島部長も「高いレベルにある」と認める

の課題になります」と話す。
現在、依頼の規模によっては見上さん一人に対応することがあり、今後は大規模な案件の取りまとめも担当してほしいと松島部長は考えている。「顧客の要望を自分でしっかり聞いて、それを実現すること。さらには、提案力や、スタッフをまとめる力も今後求められます」
庭が出来上がっていく様子を見るのが好きだという見上さん。頼もしい上司の下、竜門園モダンイズムを体現する一人として、日々、精進を続ける。

株式会社竜門園

所在地 / 仙台市泉区松森字前沼48-2
代表取締役社長 / 齋藤健 □ 資本金 / 3,000万円 □ 設立 / 1984年11月(創業:1974年) □ 従業員数 / 23人
事業内容 / 住まいや緑に関わる企画・設計・施工・管理
TEL 022-373-3934(代表) <https://ryumonon.co.jp/>